

〈県史談会平成二十八年一月十七日(日)史跡めぐり〉

伝・荻野四郎忠義一族の供養塔と居蹟(用田神社)

当会は半世紀以上も続いています。荻野の地名を姓にした荻野氏に關係する史跡めぐりは一度もしていません。故鈴木茂さんは、『県史談』第二十号「荻野郷より起きた荻野氏」で「荻野四郎居蹟は」現在、厚木国際カントリークラブの敷地内となったが、ここを荻野氏の館跡と呼んだ理由はあきらかでない。尚、中荻野公所(ぐじよ)の小野吉男氏方に荻野四郎一族の供養塔と伝えられる五輪塔が一〇数基あり、これも伝承に過ぎない。」と述べています。鈴木さん以降、『県史談』には荻野氏に關する新たな研究発表はありません。そこでこのたび、ゴルフ場の造成工事を機に史跡めぐりを行い、伝承を元に私の推論を述べさせていただきます。

(荻田 豊)

【基本情報】登場人物と石祠

《荻野氏を名乗った者たち》

- 1、荻野四郎忠義・荻野郷を姓とした文献(保元物語・一二一九〜二一年ごろ成立)に見える最初の人
保元の乱(一一五六年) 鎌倉氏族
- 2、荻野五郎俊重・石橋山の合戦に平氏方で参戦し、のちに斬罪(一一八〇年) 横山党

- 3、荻野二郎景員・幕府弓始の儀式(一二〇五年) 鎌倉氏族・梶原氏

《荻野四郎忠義居蹟の石祠銘文》

(右面) 用田神社 荻野四郎忠義居蹟也

(左面) 元久元年冬 從五位下大江季光造営

(台座左面) 天明三年 小林金左衛門正直再修

明治三十一年夏 小林春義石祠建

《毛利莊の莊園領主》

- 1、陸奥六郎義隆・森(毛利)の冠者 荻野神社西側に屋敷があつたと云われ、「六郎屋」の字名が残る
荻野小学校正門前を荻野川に下る途中に「六郎屋」の標柱がある 平治の乱(一一五九年)で討死
- 2、毛利季光・大江広元四男 毛利元就の祖

【推 論】

- 『黄色いチラシ』『荻野』にとって大切な場所①⑥
- 1、石祠銘文の年号元久は承久の誤りか? ↓①
 - 2、大江季光の造営理由 ↓②
 - 3、荻野氏の流れ ↓③④
 - 4、小野吉男家に供養塔がある訳 ↓③⑤
 - 5、小林家の修復理由 ↓⑥
 - 6、用田神社の「用田」とは ↓⑥
 - 7、陸奥六郎義隆と荻野四郎忠義の關係(保元・平治の頃の荻野 ↓⑥)

